29日 校長から電話が

教職員で特別に話し合う時間をもつ

皆で話し合う　資料を45セット送ってくれ

29日の朝、ある県立高校の校長から電話がかかってきました。「教職員の話し合いに使うから、県教委が『県民の意見を聴く会』で配布した資料を45セット送ってくれ」と言うのです。最初は、校長だとは知らずに対応しましたが、わざわざ県教委の資料を組合に求めるのも変だと思い、もう一度連絡を取りました。

組合「資料は何に使われるんですか」
校長「この前、高教組からもらった手紙(※)に、教職員が話し合いをするように書いてあった。職員会議では時間が足りないので、教職員の意見もあり、特別に話し合う時間をもつことになった。高教組からの手紙の中に、必要な資料は組合の方で用意すると書いてあったので、電話でお願いした」
組合「はい、よく分かりました」

電話の向こうに真剣に対応する校長の姿が

校長「校長の中には、県は一度決めた事は実行するので、学校で話し合っても意味がないと、何もしない人もいるが、自分はそうは思わない」
組合「そりゃー、学校で話し合いをすべきですね。県教委の資料も入れますが、参考のために、これまで私たちが作った資料を入れておいてもいいですか」
校長「はい、お願いします」

「地域の高校をつぶすな」という県民の思いに、校長と組合が合流した瞬間です。電話の向こうには、大事な問題には、真剣に対応しようとする校長の真摯な姿がありました。
「県がすることには抵抗できない」。常に県の意向を受けている校長たちは、そんな無力感に陥りやすい。しかし、今、多くの校長がこれでいいのかと、思い始めています。

※高教組は、９月９日付けの手紙で、すべての県立高校の校長・ＰＴＡ会長・同窓会長に次の３点を要請していました。①統廃合問題で教職員の意見を聞く場をもつこと。②校長または学校としての意見を知事と教育長にあげること。③保護者や子どもたちに事実を知らせること。

ときどきＰＴＡ会長からの電話もあります。

高校統廃合はストップせよ
速報 第２１号　2010/09/30　発行：滋賀高教組

(増し刷りして全教職員に配布し、また掲示板に貼るなどして下さい)